

Ⅲ－1 2 津軽地方における Acute Care Surgery の在り方

○坂本 義之、諸橋 一、三浦 卓也、鍵谷 卓司、横山 和樹、
吉原 悠貴、袴田 健一
(弘前大学大学院医学研究科消化器外科科学講座)

【背景・目的】Acute Care Surgery (ACS)の役割が拡大しそのニーズが高まる中で、大都市圏と地方では人的・物的医療資源密度に大きな差があり、Acute Care Surgeon の教育体制もそれぞれの地域で整備のあり方が異なってくる。ここでは地方における ACS の在り方について論じてみることにする。ACS とは、外傷外科、救急外科、外科的集中治療の 3 つの領域を三位一体として担当する新たな診療概念で、2005 年にアメリカ外傷学会にて提唱されたものである。元々は、外傷治療を中心とした分野であったが、重症外傷症例が減少したため、外傷外科医の果たす役割を内因性救急外科手術や重症患者管理に広げて再定義したものである。日本での ACS に対応する病院は大きく 3 つのグループに分類される。①独立型三次救命救急センターは多くの場合、全ての領域の外傷診療に対応できる重症外傷センターが整備されているが、十分な手術経験数を得ることは難しいとされ、人材育成のためには大学病院との連携が必要とされている。②総合病院併設型三次救命救急センターは外科のサブスペシャリティが連携して外傷診療や内因性救急外科手術、重症患者管理を行うもので、救急外科手術症例と待機手術症例が共に多い総合病院で運用されている。③豊富な手術症例と疾患パリエーションがある二次救急病院に分けられる。我が青森県の現状を振り返ってみることにする。【結果】日本外科学会の HP によると、現在青森県内の外科専門医数は人口 10 万人あたりに換算して 15.6 人と全国 40 番目の低さであり、外科医不足は顕著である。この津軽地方においては当院は高度救命救急センターを併設しているが ACS 認定外科医不在の影響もあり、2021 年からは外傷手術数は 0 であり、外傷も含めた緊急手術は我々消化器外科が主に行うという形をとっている。当科を含めた関連病院の全身麻酔手術の件数の総計は年間約 9 0 0 0 件で、これらの中で ACS に該当する手術件数は約 1.4 % であり、外傷症例は僅かに 2.3 % であった。【考察】地方においては、消化器外科医にとって ACS は日常診療である。普段より癌切除を扱うことで解剖学的視点を重要視しているため、特に症例数の多い内因性救急外科手術に関しては容易に対応が可能である。ただし減少傾向にある外傷症例に対する damage control surgery や open abdominal management などの特殊な技術の習得とその教育に関しては、ハイボリュウムセンターでの研修などに頼らざるを得ないのが課題である。【結論】ACS の診療ニーズは、地域や医療機関によって異なる。特に外科医不足が叫ばれる地方ではそれぞれに即した日本型 ACS の整備が必要とされ、地方ではその中心的役割を果たすのが消化器外科医であると考ええる。